

弥生人氣分で赤米田植え



田んぼの泥に足を取られながら苗植えに励む子どもたち=9日、下関市豊北町神田上

下関・豊北小

下関市豊北町滝部の豊北小学校（船木美弘校長、153人）の5年生33人が9日、同町神田上の土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム（松下孝幸館長）で、弥生時代の人たちが栽培した米に近いとされる古代米の赤米の苗植え作業に励んだ。

赤い目印の付いた田植え定規やロープに沿って手で苗を1株ずつ植えていき、“弥生人氣分”を味わった。近くの農業、西嶋昭二さん（57）が指導し、約1

時間で田植えは終了。中衣を着た子どもたちは塚田菜乃さん（10）は「ずっとしゃがんでいたので腰が痛くなった。米作りで苗を1株ずつ植えていくのが大変だ」と笑顔を浮かべた。

農薬や肥料を与えるに栽培し、10月末ごろに収穫予定。児童らは各家庭に少量ずつ持ち帰って味わうという。松下館長は

「弥生時代と同じ米作りをかなり再現できていると思う。昨年よりも多い収量を期待している」と話した。

「貫頭衣」着て古代を再現

国指定史跡の土井ヶ浜遺跡は、弥生時代の埋葬跡で、水田跡や稻穂を摘み取る石臼が見つかっていることから、この時代に周辺で稻作が行われたとされる。ミュージアムがオープンした1993年から毎年、地元の児童がふるさと学習の一環で、赤米の田植えや稻刈り体験を続いている。

この日、児童らはミュージアムも見学し、郷土の歴史について理解を深めた。（石田晋作）